



# 「富士山の絵画について」



坂上 大高 小川 輝星  
深沢 奈穂 明光 歩実 紅林 花楓

# 発信対象

---

## 小さい子供

# 発信方法

---

ポスター

## なぜポスターか

- わかりやすい
- たくさんの人に見てもらえる
- 親近感を感じやすい

## ポスターの内容

おすすめの絵画を  
簡単に、  
わかりやすく、  
伝えるものです。

なぜ富士山が描かれ始めたのか

富士山の美しさを描いた X

# なぜ富士山が描かれ始めたのか

富士山の美しさを描いた X

物語や伝記などを絵画化する時に、  
背景の一部として富士山が描かれた







歌川（安藤） 広重

東海道五拾三次之内 原朝之富士 (1831)

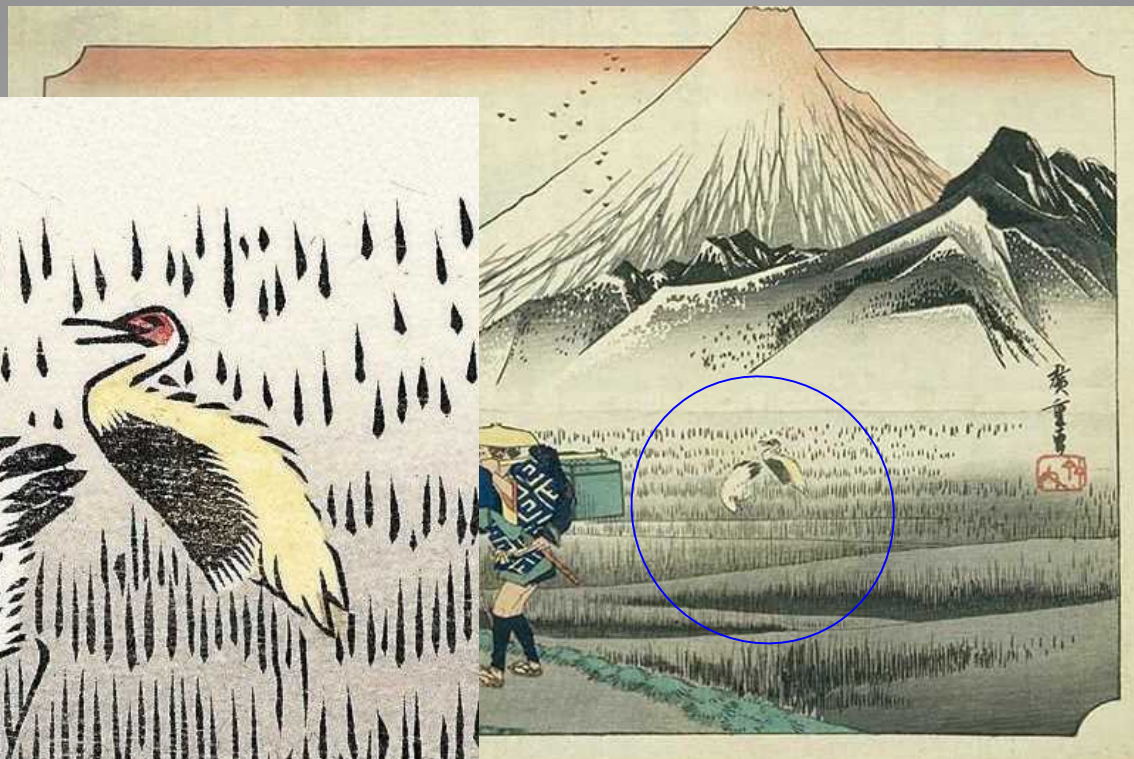


# 現在の沼津市に当たる場所



足を止めて見るほどの富士の美しさ

# 現在の沼津市に当たる場所



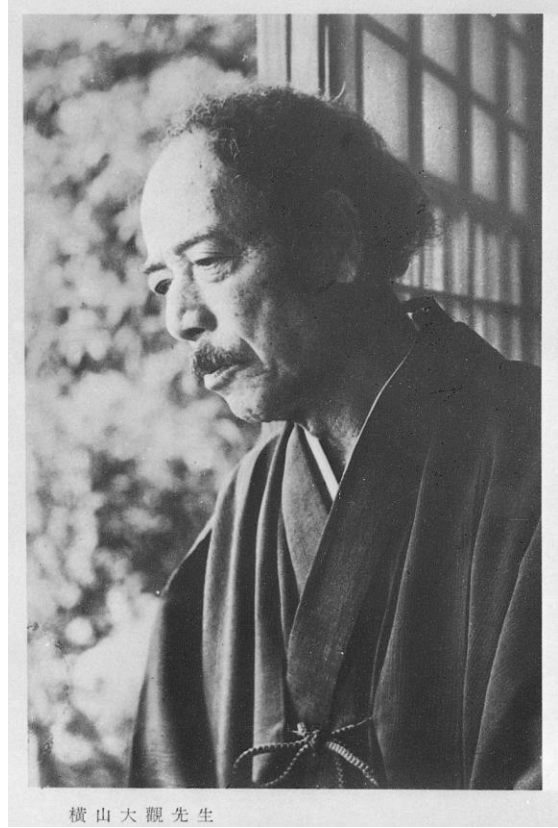
冬の澄んだ空気と鶴が居れる綺麗さ



現在の沼津市に当たる場所



富士山の美しさの表現がある



横山大観先生

「乾坤輝く」

横山大観

出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」 (<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)



この作品は芸術家の横山大観が東京美術学校を卒業し、50年目に描かれた作品です。

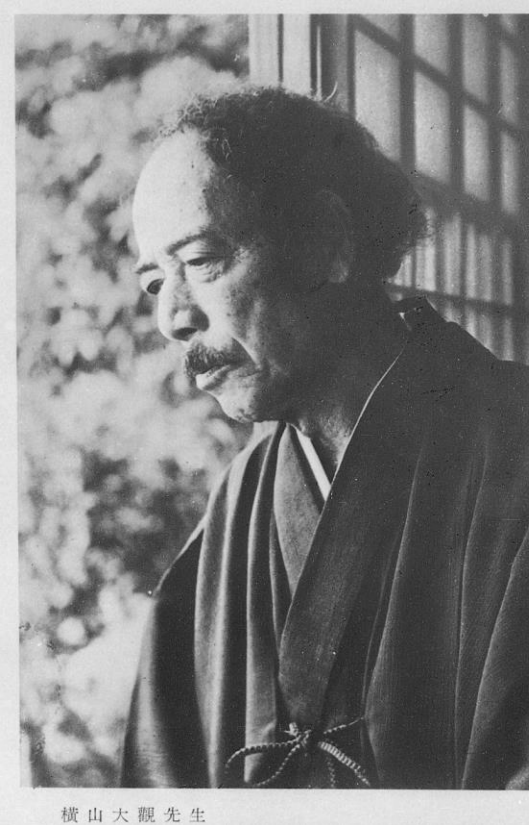
この作品は霊峰と旭日という日本を最も表す象徴的なモチーフとなっていて大観の愛国心が伝わります。

「乾坤輝く」

そして、大観は富士山をモチーフに約1500点もの作品を描いており、富士山をとっても好んでいたことがわかります。

また大観は  
「富士山を描くことは、富士に映る自分の心を描くこと。つまり己を描くことだ。富士は春夏秋冬、朝昼晩、いずれも趣がある」と語っており、

大観にとって富士山は永遠のテーマであった、そして亡くなる前に仕上げた作品も富士山であったことから富士山への気持ちが強かったことがわかります。



横山大観先生

## 横山大観



## 歌川広重 『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』



この作品は歌川広重によって描かれた『東海道五拾三次内 由井 薩埵嶺（とうかいどうごじゅうさんつぎのうち ゆい さつたれい）』という絵です。

次々に変わる景色、季節、時間、行き交う人々の生き生きとした営み、全55図を郷土色豊かに描き出しました。

その中の一つ「由井・薩埵嶺」は、難所である薩埵峠（さつたとうげ）を越えた先、富士と駿河湾が一望できる地点から描いた明るい絵です。

歌川広重『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』



峠から望む富士山はすっかり雪に覆われています。

# 歌川広重『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』



足のすくむ断崖からへっぴり腰でのぞく仕草をして、眼前に開けた風景を眺める旅人の姿が小さく描かれています。

岩肌をあらわにした山道の険しさと、静かで広々とした海上とを対比させ、立体的に見せた傑作といわれています。



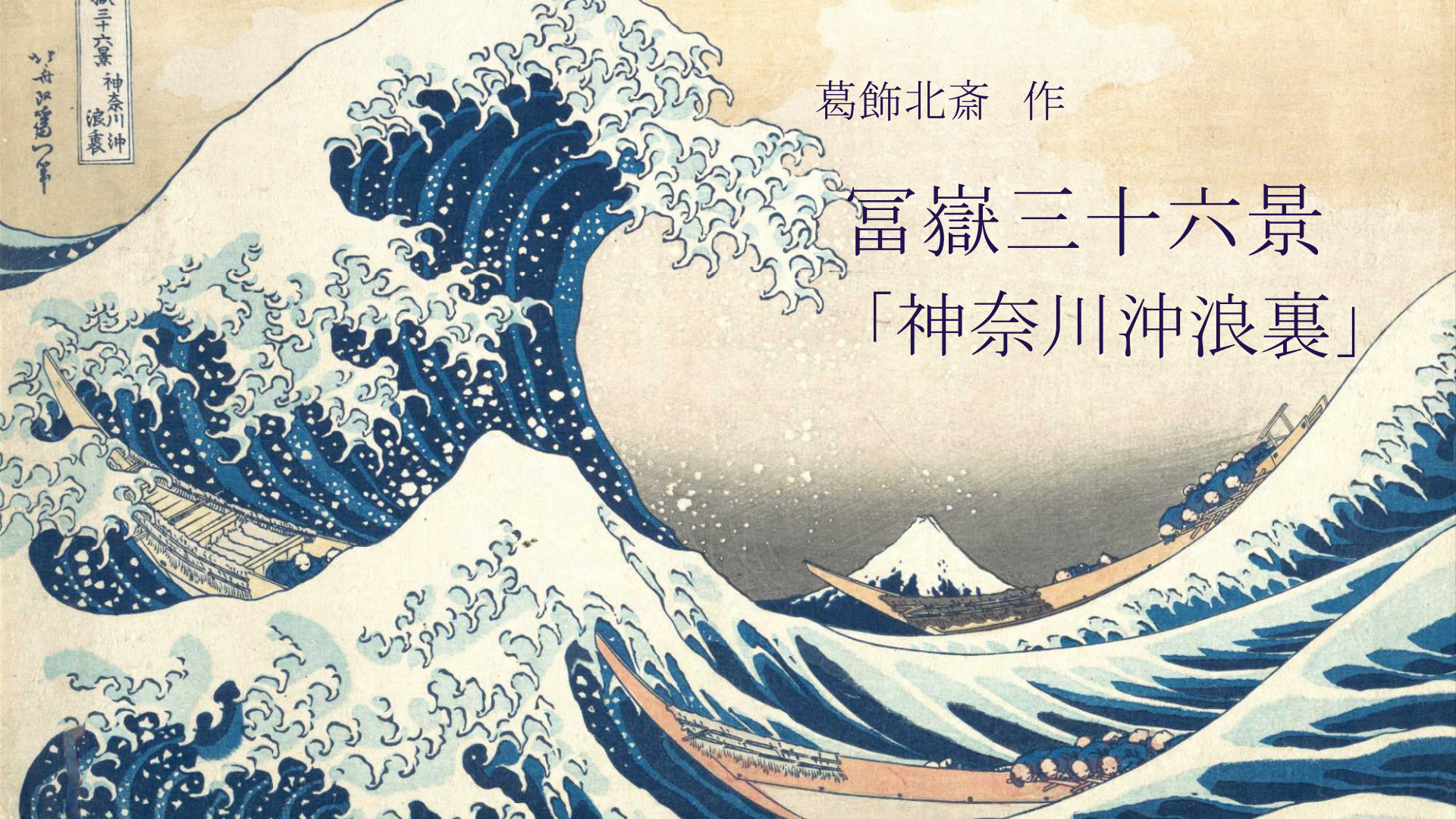


葛飾北齋 作

富嶽三十六景  
「神奈川沖浪裏」

富嶽三十六景 神奈川沖浪裏

舟は浪をしのぎて



## 簡単な紹介

- 日本絵画の中で、最も有名な作品の一つ
- 富士山を各地のあらゆる角度から描いた、全46図の木版画
- 当時、北斎はすでに70歳を過ぎていた。

# 様々な対比

---

静・動

人・自然

遠・近

海・空



A traditional Japanese landscape painting, likely a woodblock print or a similar style, depicting a scene with Mount Fuji in the background. The mountain is rendered in a golden-yellow hue, suggesting a sunrise or sunset. The foreground shows a village with several buildings, including a prominent one with a red roof. The landscape is characterized by horizontal bands of color, creating a sense of depth and atmosphere. The overall style is reminiscent of the Edo-period landscape paintings.

# 富士参詣曼荼羅について

さんけいまんだら

# 富士山の参詣曼荼羅について

## 参詣曼荼羅とは

- ◆ 学術用語で「参詣曼荼羅」と呼び習わされている一群の宗教画。史料用語ではない。
- ◆ 主として 16~17 世紀(1500・1600 年代)にかけて、霊場(寺院・神社)への参詣を目的として作成された宗教的な案内絵図。
- ◆ 全国 40 以上の寺社におよそ 150 点近くが現存。静岡もそのうちに入っている。

## 参詣曼荼羅の特徴

- ◆聖地・霊場を巡礼する人々の姿を図中に描いている。
- ◆16世紀半ばから17世紀末ころまで、絵解き勧進に用いられた。

例えば、この写真を見ると登山口に門番の人が立っていることがわかります。

また更によく見ると、白い服を着た参詣者が赤ちゃんを背負って富士山に登ろうとしています。

富士参詣曼荼羅・清見寺→







これは富士参詣曼荼羅の浅間大社を描いたところです。





これは皆さんご存知の湧玉池です。  
当時の人々は湧玉池の中へ入っていたそうです。  
理由は体の垢や汚れをきれいな水で洗い流すという習慣があった  
からだそうです。



国指定特別天然記念物

富士山御霊水

湧

わく

玉

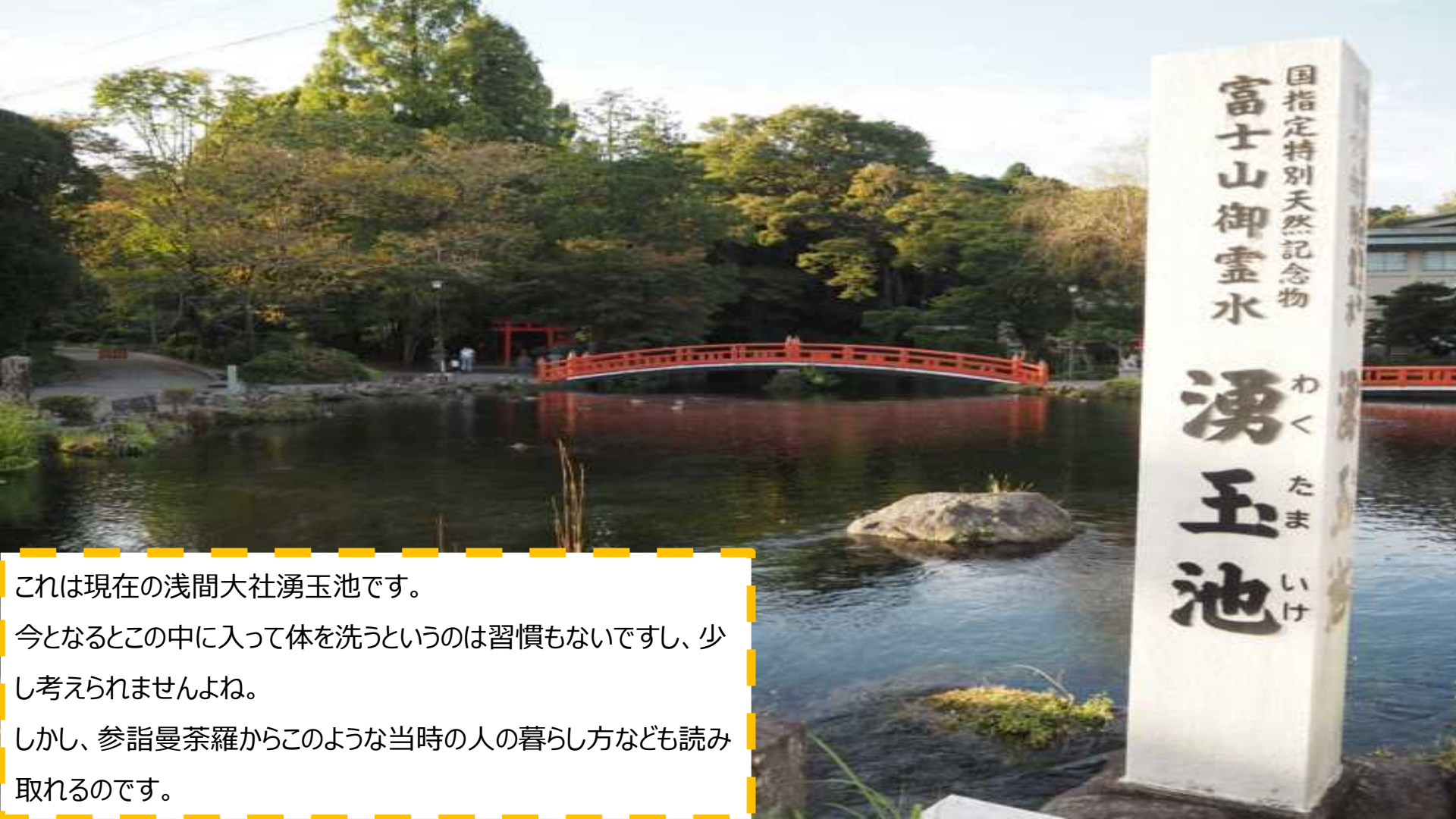
たま

池

いけ



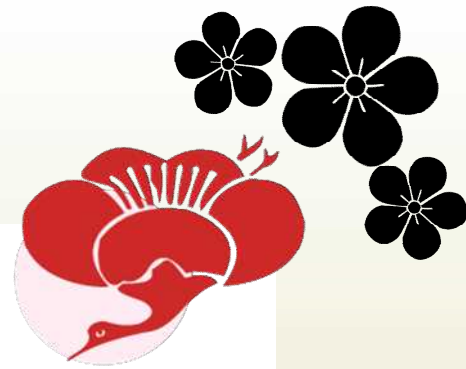
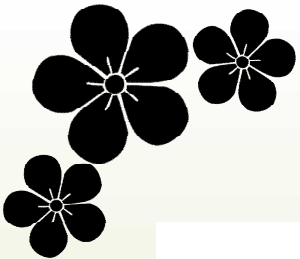




国指定特別天然記念物  
富士山御霊水

わく  
たま  
いけ  
湧玉池

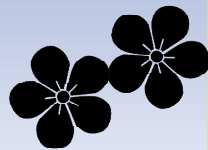
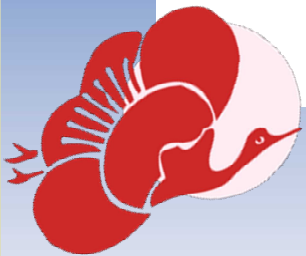
これは現在の浅間大社湧玉池です。  
今となるとこの中に入って体を洗うというのは習慣もないですし、少し考えられませんよね。  
しかし、参詣曼荼羅からこのような当時の人の暮らし方なども読み取れるのです。



参詣曼荼羅の清見寺と浅間大社についてご紹介しました。

他にもたくさん場所があり、細かく見ていくと知らない事がわかったり、新しい事実を学べたりして思っていたよりも興味深く面白かったです！

ぜひ、みなさんも興味を持ったら富士山世界遺産センターに訪れて参詣曼荼羅の面白さを体験してみたいはいかがでしょうか。



たくさんのことを  
調べたが、  
ポスターには  
難しいことを  
いれない  
ようにした。



かいた人は日本が  
大好き!  
きれいな朝日だよ!



500kmを  
2mの絵に!  
この絵には神さまが  
かくれているよ!



この絵は70さいの  
おじいちゃんがかいたんだって!  
対比がきれい!



富士山と「するがわん」を  
みわたせるところでかいた  
明るい絵だよ!



朝日にてらされてる富士山!  
富士山をみてる子がいたりして  
いろんな物語がこめられてる!

すぎな富士山の絵画は?

## 全体のまとめ・新たに生まれた課題

- 富士山は昔から愛されていて、描かれ続けている。
- 富士山は、背景の一部として描かれ始めた。
- 調べるのは簡単だけど、こどもにわかりやすく伝えるのは難しい。
- どこに掲示させてもらうのか